

旭川商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2010年5月調査結果-

平成22年6月10日

調査要領

○調査期間 2010年5月17日～21日
○調査対象 200社
○回答企業 129社
○回収率 64.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を合わせ回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少)

旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より3.7ポイント回復の▲34.1。

平成7年4月調査開始以来182ヵ月連続マイナス2桁水準で推移している。

業種別では、建設業、製造業、卸売業、小売業の4業種で回復となった。

※向こう3ヵ月の先行き見通し業況DIは▲36.4と悪化しており、依然として厳しい状況である。

業種別でみると、製造業、卸売業の2業種が悪化しており、地域経済や足下の景気感は依然として厳しい状況となっている。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

| | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 先行き見通し 6～8月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 業況 | ▲62.3 | ▲60.8 | ▲57.4 | ▲58.5 | ▲37.8 | ▲34.1 | ▲36.4 |
| 売上 | ▲49.6 | ▲47.9 | ▲41.8 | ▲30.5 | ▲20.0 | ▲22.5 | ▲31.0 |
| 採算 | ▲51.6 | ▲46.3 | ▲40.2 | ▲33.1 | ▲29.6 | ▲21.7 | ▲28.7 |
| 仕入単価 | ▲15.6 | ▲13.3 | ▲22.1 | ▲17.8 | ▲34.1 | ▲27.9 | ▲27.9 |
| 従業員 | ▲13.9 | ▲17.5 | ▲21.3 | ▲12.7 | ▲7.4 | ▲9.3 | ▲7.8 |
| 資金繰り | ▲27.0 | ▲25.0 | ▲30.6 | ▲26.3 | ▲16.4 | ▲12.4 | ▲19.4 |

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

| | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 先行き見通し 6～8月 |
|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|----------------|
| 建設 | ▲56.0 | ▲64.0 | ▲65.4 | ▲68.0 | ▲50.0 | ▲42.9 | ▲42.9 |
| 製造 | ▲54.2 | ▲50.0 | ▲57.7 | ▲58.3 | ▲22.6 | ▲19.2 | ▲30.8 |
| 卸売 | ▲55.6 | ▲59.3 | ▲50.0 | ▲40.0 | ▲28.1 | ▲17.3 | ▲37.9 |
| 小売 | ▲68.2 | ▲66.7 | ▲52.6 | ▲50.0 | ▲34.8 | ▲33.4 | ▲25.0 |
| サービス | ▲79.2 | ▲65.2 | ▲60.9 | ▲77.3 | ▲61.9 | ▲63.6 | ▲45.5 |

今月のトピックス（業界の声）

| | |
|-------|--|
| 建設業 | <ul style="list-style-type: none"> ・注文住宅については現在上向しているが、力強い手ごたえが感じられなく、底をわずかに上に留まるのでは…。また、契約増が利益増につながらず、仕入れ業者との価格交渉・経費節約は必須となる。 ・公共工事の面では前年同日より増えつつあるが、新築などの水道工事は減少傾向にあり、先行きを考えると不安要素も多い。 ・春の資金繰りのため過当競争が激しい。技術者をリストラしているので、不況下の人不足で悩んでいる。 ・地上デジタル放送によりインフラ整備が今後多くなり、アナログ電波が来年7月24日までとなるため、道北内において大幅に工事量が増える。売上・採算については好転だが、利益を返済に推し進めていくため不変となり、景気の実感がわからないのが現状。 |
| 製造業 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域経済や天候不順の影響、また原材料の上昇などと不安材料が多く厳しい状況である。雇用状況も良くなり消費の財布の紐は固い。 ・鋼材の値上がりが続くか不透明のため、スクラップの引取価格も不安定。 ・景気の底打ち感はあるものの、上昇に転じるほどではない。 ・連休明けも仕事の動きは悪い。関連企業、商社も同様。6月以降に希望を抱く。 ・大手スーパーのテナント店舗閉鎖による売上減、退職金など一時的に必要な経費増により、資金繰りの悪化。 |
| 卸売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・底を打った感はあるが、売上・利益ともに力強さはない。天候などの影響を受け、一気に悪化する懸念あり。 ・売上は前年並みで推移しているが、全般的にゴールデンウィーク明けの落ち込みもあり、例年同様、依然として苦戦状態は続いている。大手量販店の価格競争は続いており、消費の拡大・景気の回復感は感じられない。 ・商品仕入単価の高騰がメーカーからの決定があり、収益に影響するものと思われる。 ・天候不順で、育成・販売の動き悪い。 ・鋼材の値上げを売値に転嫁するのが、大変な状況となっている。 |
| 小売業 | <ul style="list-style-type: none"> ・ボトルウォーター事業は卸販売好調に推移しており安定。ウェブ事業は水産物が一段落だが、農産品の先行販売が順調。 ・全体的に集客が少なく厳しい業況。特に例年売上を作れるGW期間中の集客が極端に少なかったため、マイナスの大きな要因になった（北広島アウトレットモール開業の影響が大きい）。アイテム別に見ても、立ち上がりから気温が不安定で、ポロやショートパンツなどの盛夏物の動き出しが鈍く、客単価が下がってしまった。 ・エコカー購入補助金対象車を中心に受注は前年並。補助金終了の9月以降の市況が心配される。 ・5月の観光業界はGWにかなりの観光客が集中し、明けてからは少ない状況が続いている。しかし本年は、昨年に比べて修学旅行の予約が多くなってきている。 |
| サービス業 | <ul style="list-style-type: none"> ・4月は気温が低かったため売上が伸びず、5月に入って10%位のプラスになっている。 ・新年度に入り公共事業の発注も始まりだったが、昨年度の同時期と比較し受注量が減少している。公共事業費の大幅な削減に加え、民間需要の低迷と不安要素が多く、売上減少に伴う採算の悪化が懸念される。 ・GW期間も暦の関係上、前年より休前日が短い影響もあり、期間の稼働は前年並みであるが売上は85%、第3週よりビジネス需要が好転し、稼働率の確保はできるがADRは低下。新規開業ホテルの影響も大きい。 ・前年よりも厳しい現況にある。中旬・下旬においても上昇する気配がみられない。 ・GWは前年比微増だったが、以降は減少が続いている。高速の無料化を控え、今後益々の減少が予想される。 |

旭川市の産業別概況

| 産業 | 概況 |
|-------|--|
| 建設業 | <p>売上 DI3.5 ポイント、採算 DI0.1 ポイント、仕入単価 DI3.6 ポイント、従業員 DI14.3 ポイント悪化。資金 DI3.5 ポイント回復、総じて業況 DI も 7.1 ポイント回復となった。業種別では建築業横ばい。総合工事 9 ポイント、設備その他 11 ポイント回復となった。注文は現在のところ上向しているが力強い手ごたえが感じられなく、底をわずかに上るに留まるのではとの声も寄せられている。</p> |
| 製造業 | <p>売上 DI15.4 ポイント、仕入単価 DI4.8 ポイント、従業員 DI2.5 ポイント悪化。採算 DI0.7 ポイント、資金 DI2.3 ポイント回復、総じて業況 DI も DI3.4 ポイント回復となった。業種別では印刷出版 7 ポイント悪化。食料品横ばい。家具木材 10 ポイント、金属窯業他 5 ポイント回復となった。天候が安定せず、行楽地の人出もいまひとつであったとの声も寄せられている。</p> |
| 卸売業 | <p>資金 DI6.9 ポイント悪化。売上 DI8.7 ポイント、採算 DI12.1 ポイント、仕入単価 DI7.1 ポイント、従業員 DI8.7 ポイント回復、総じて業況 DI も 10.8 ポイント回復となった。業種別では、繊維 25 ポイント悪化。その他横ばい。食料品 30 ポイント、機械鋼材 27 ポイント回復となった。天候不順により育成・販売の動きが悪いとの声も寄せられている。</p> |
| 小売業 | <p>従業員 DI4.6 ポイント悪化。売上 DI5.0 ポイント、採算 DI1.6 ポイント、仕入単価 DI17.9 ポイント、資金 DI5.0 ポイント回復、総じて業況 DI も 1.4 ポイント回復となった。業種別では、食料品、自動車 13 ポイント悪化。衣料品 42 ポイント、家電時計他 5 ポイント回復となった。例年に比べて、GW 期間中の集客が極端に少なかったため、マイナスの大きな要因になったとの声も寄せられている。</p> |
| サービス業 | <p>採算DI34.3ポイント、仕入単価DI15.6ポイント、資金DI24.4ポイント回復。従業員DI横ばい。売上DI2.5ポイント悪化、総じて業況DIも1.7ポイントの悪化となった。業種別では、クリーニング50ポイント、ホテル35ポイント、飲食25ポイント回復。その他30ポイント、整備業33ポイント、運送25ポイント悪化となった。前年よりも厳しい現況にあり、中旬・下旬においても上昇する気配がみられないとの声も寄せられている。</p> |